

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 15章 1～10節＞
福音とは何か、信仰とはどういうものかを伝える 15章の三つの例え話。

1 よく知られた例え話。それが語られた理由を考えることが重要。

イエス様が語られた分かりやすいたとえ話です。これを読んで考える時にまず大事なことは、イエス様はなぜこの話をされたのかです。それは、イエス様の下に徴税人や遊女が来てもイエス様は拒まれず、むしろ迎えて食事を共にされたことをファリサイ人や律法学者が非難したからです(1-2)。ということは、イエス様は徴税人や遊女ら「罪人」(律法に従わない人々 箴言 1:15)を「見失った一匹の羊」(4)や「無くした一枚の銀貨」(8)と見ておられ、これを懸命に探し続ける例え話をされたということです。ここから何を聞き取るべきなのでしょうか？

2 本当に分かりやすい話？ 気になる二点。

気になることが二つあります。①「見失った」(1, 4, 6)、「無くした」(8, 9)は同じ原語で、「滅びる、死ぬ、消滅する、駄目になる」が元の意味の言葉です。大事なことは、持ち主(神様)の思いが色濃く反映している言い表しがなされているということです(「迷子の羊」は羊の側からの表現)。つまり、ファリサイ人らがなんと言おうと、神様にとって徴税人や遊女ら「罪人」は放っておけない大事な存在なのだ、とイエス様は告げられているのです。②「探し回らないだろうか」(4)、「探さないだろうか」(8)と当然のごとく言われていることは、決して当然のことではないでしょう(99匹、9枚残っている)。しかし、①のような神様だから、このことも当然のことと考えられる、考えていいのです！

3 聖書が伝えようとする福音(グッド・ニュース)とは何か。

聖書の神様とは、このような決して当然ではない赦しの愛を、私たち人間に注ぎ続けて下さっている神様なのです。イエス様は神様のこの愛を告げに来て下さった救い主であり、イエス様の十字架の死こそが、そのことを最も示している出来事なのです。これが福音、よき知らせ、神様からのグッド・ニュースなのです！ この例え話を通して、私たち自身が神様によって滅びから命の中に戻していただいた罪人であること思うと同時に、神様の下(教会)にやって来る人をファリサイ人のような目で見ていないか、迎え入れているか、覚え直したいと思います。